

なぜCMの女性像をめぐる「炎上」が起きるのか

日時 2023年11月24日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 守 如子（研究員、社会学部教授）

2010年代中頃から、CMの「炎上」と呼ばれる現象がみられるようになった。特に女性の描き方をめぐって、インターネット上で批判が相次ぐケースが多い。最初期の一つが、三重県志摩市の市公認キャラクター「碧志摩メグ」で、海女を過剰に性的に表現しているとして、公認撤回を求めるオンライン署名までもが集められた。ただし、この運動に対しては、キャラクターを擁護するファンコミュニティからの批判も激しかった。この事例にみられるように、広告を始めとしたメディア表現のジェンダー・バイアスをめぐって、ネット上で議論が「炎上」するケースがいくつも生じている。

メディア表現のジェンダー・バイアスをめぐる批判運動は、ソーシャルメディアの発展によってはじめて展開されるようになったものではない。1975年に「国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女たちの会」が「私、作る人・僕、食べる人」という性別役割分業を肯定するテレビCMに異議申し立てを行って以来、さまざまな運動が展開されてきた。現在のように「炎上」が頻発するのは、運動という形をとらずとも、ソーシャルメディアによって誰もが声を上げることが可能になったことが理由の一つと考えられる。メディア表現のジェンダー・バイアスへの批判（やそれに対する批判）が、ネットによって増幅された結果、数々の「炎上」が生じているのである。

本講座では、どのような表現が批判を集めているのか、なぜ「炎上」が起きるのかについて分析したうえで、この現象をどう考えればよいのかについて、考察を深めたい。

* * *

●聴講無料（定員200名／先着順）＜事前申込制＞

人権問題研究室ホームページ トップページ (<https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>) にある「新着情報」内の本講座案内ページの申込フォームから事前を受講申込をしてください。定員になり次第、受付を終了します。

空席がある場合に限り、事前申込をされていなくても聴講は可能です（当日会場にて参加受付を行います）。ただし、なるべく事前申込を行ってください。

手話通訳が必要な場合は、11月2日(木)までに人権問題研究室へご連絡ください。



主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>